

宮私幼 P T A だより

第 79 号

発行 者 連 合 会
宮 幼 幼 園 連 合 会
宮 私 幼 園 連 合 会
(会 長) 渥 美 巖
編 集 者 員 会
広 報 委 員 会
事 務 局
仙 台 市 青 葉 区 国 分 町 三 丁
目 6 - 1 2 佐 正 第 二 ビ ル 6 F
電 話 (0 2 2) 2 6 3 - 7 0 4 0 番



**東日本大震災、心ひとつで
復旧・復興に頑張ろう！**

会長 渥 美 巖

マグニチュード九・〇、最大震度七の東日本大震災から一年になり国の災害査定も終り被害の全容が明らかになってきております。

県内の死者九四七二人、行方不明一八〇五人、全壊住家八四〇六二棟、半壊一三六七一二棟等、被害総額は八兆八千億円に達する未曾有の大災害であります。

この甚大なる被害復旧の道筋を示す「宮城県震災復興計画」によると、復旧期三年、再生期四年、発展期三年で今後十年間、県・市町村合わせた事業費は約十三兆円であり、従来とは異なる新たな制度設計や手法を取り入れた「提案型」となっています。

中身としては「災害に強く安心して暮らせるまちづくり」や「復旧にとどまらない抜本的な再構築」など五つを基本理念とし、被災者の生活支援と被災地復興を最優先に、「教育環境の確保」など十一項目を緊急重点事項に、「未来を担う人材の育成」など十項目

を復興ポイントとしています。

この「宮城県震災復興計画」を一年でも早く達成するには、「県民が心をひとつ」で頑張っていかなければなりませんし、国の財政支援をはじめ税制上の特例や抜本的な規制緩和策が必要であります。

県内私立幼稚園の園児数二四六八八人で、少子化に伴い毎年約五〇〇人ずつ減少し、幼稚園運営が厳しく休園する幼稚園が出ている中、今回の地震・津波被害の大きい六園が、現在も再建方法等検討中と伺っており、次代を担う子供の為に、私立幼稚園に対する公的支援が不可欠であります。

一月六日、村山県私立幼稚園連合会理事長と共に、村井知事に平成二十四年度私立幼稚園に対する補助金の増額要望を行って参りました。子供達の教育環境の改善と保護者の経済的負担の軽減を図る為、私達 P T A が心ひとつとして運動を展開して参りますので、皆様のご協力をお願い致します。

**私立幼稚園振興大会・私立幼稚園
P T A 研修大会に参加して**



純心幼稚園 P

結 城 瞳

今年度の宮私幼振興大会・宮私幼 P T A 研修大会は、去る十月十三日仙台市市民会館大ホールにおいて、一、〇〇〇名を越える P T A の皆さまの参加のもと、盛大に開催されました。

大会は、東日本大震災からの一日も早い復旧・復興を願い、「高めよう絆を！」「子育ては、親と



地域と幼稚園」のスローガンのもと、第一部の振興大会は、震災復旧・復興の対応にお忙しい中、来賓として村井嘉浩県知事、島山和純県議会議長のご参加をいただき、ご祝辞いただきました。お二人のご祝辞の仲で、私立幼稚園の震災復旧に対する支援策をはじめとし

て、これまでも増して私立幼稚園の支援に取組まれる力強いお考えをお聞かせいただきました。

終わりに、「東日本大震災での経験をつまえ、子どもたちのすこやかな成長・発達・安全のため、親と地域と幼稚園の絆を高め、それぞれの役割を自覚し、その勤めを果たす」との私たちの決意と共に、各関係機関の支援を求めめる大会宣言が読み上げられ振興大会は終了しました。

第二部の研修大会は、佐藤能力開発研究所代表の佐藤忠男先生を講師に迎え、「やる気を育てる魔法の言葉」と題してご講演をいただきました。

先生は、人間鑑定士・ヒューマンカウンセラーとして各方面で活躍され、先生の数々のカウンセリングや人材育成のご経験の中から生まれたお考えを、子どもと向き合う「親の心得」としてお話をいただきました。その中には、親は子どもの才能を伸ばす一番のサポーター、子どもにかけ言葉で子どもの運命が変わる。心から出た言葉は、人を作る。「ほめ言葉」「期待の言葉」「相談の言葉」「感謝の言葉」をかけましょう。そ

のような魔法の言葉をかけることができるお母さんは、明るい美人、あたたかい美人、健康な美人、優しい美人、心美人、笑顔美人です。ほめる言葉は黄金の水、批判の言葉は泥水など、随所にユーモアを交え身近な事例と共に、独特の語りでお話しされ、会場からは共感と笑い声があふれる場面が多く見られました。

先生のお話で、家庭や親のあり方、子どもへかける言葉の大切さを改めて思い起こされ、私自身二人の息子との関わりをふり返る良い機会になりました。

お話の終わりで、「あせるな。おごるな。いばるな。くさるな。まけるな」の頭文字を並べた「あおいくま」の心得を聞かされ、家事と子育てに追われる毎日ですが、あせらず、くさらず、子どもの才能を伸ばす一番のサポーターになれるように、子どもたちとの触れ合いを大切にしていきたいと感じた研修会でした。



全日本私立幼稚園PTA連合会

全国大会に参加して

塩釜聖光幼稚園 (P)

櫻井 多恵子



去る十二月一日、東京・アルカディア市ヶ谷において、全日本私立幼稚園PTA連合会の第二十六回全国大会が開催されました。

「次代を担う子どもたちのために」家族の絆に心ゆたかな子々」をテーマに全国各地から幼稚園関係者、保護者代表が集い、宮城県からは宮私幼役員、PTA役員五名で参加しました。

大会式典では、最初に3・11東日本大震災で亡くなられた方々の冥福を祈り黙祷が捧げられました。河村建夫全日本私立幼稚園PTA連合会長はじめ、奥村展三文部科学副大臣の挨拶があり、皆様より被災者の方々へのお見舞の言葉をいただきました。

幼保一元化の話題では、中間取りまとめの時期で、次代を担う子



どもの教育こそ国家の根幹をなすという事をふまえた政策の推進を行いたいとの話をされました。 続く記念講演は、「笑顔があふれる家庭の中で、子どもの伸びる力が育っていく」をテーマに、NHK「すくすく子育て」に出演中のイクメンパパとして有名な俳優の照英さんと香川敬全日本私立幼稚園連合会会長との対談形式で進められました。

現在、年中四才の男の子と一才の女の子がいて、下の子が産まれた時には、やはり赤ちゃん返りをしたそうです。その時に番組で一緒に先生の「子どもは親を見ていて親の愛情を欲しがっています。子どもの視線を感じて下さい。」と言われ、それをきっかけに、まだ産まれてから四年しかたっていない事を思い出し、下の子と同じ対応をしてあげたそうです。お薦めの絵本は「ちよつとだけ」で、これを読んで大泣きされたとの事でした。子供が産まれて一才の時

大事に盛り上げたり、オフロの時間は子どもの体の成長がみられるので大切にされているそうです。 そんな中、子育てを通して感じる事は、「自分を愛して自分も自立していく気持ちが大変だし、子どもからのアイキャッチを受け取っていく。そして、心豊かな生活をするための一つとして嫌な顔したいけど笑ってみる。ちよつと女優になってもいいんじゃないか？」との事でした。番組に出演後の変化としては、「責任感と自分が学び続けなければならない事。子どもと一緒に成長し続けなければならない」という事を改めて感じられたそうです。照英さんの何事も本気で熱く取り組まれている姿から沢山の勇氣と子育てのヒントをいただきました。



「もう少して運動会だね、何が楽しみ？」と本番までの過程を

地区活動報告

大崎栗原地区PTA地区活動

純心幼稚園(T) 尾花 咲 二

今年度の大崎栗原地区のPTA活動は、例年のように、地区の私立幼稚園と保護者の情報の共有のための広報紙「わわわ」の発行と、親子のふれあいについて学ぶ研修交流の活動を行いました。

今年の「わわわ」は、「心ひとつに、笑顔でつながろう宮城っ子」をテーマに、お母さんとかわいい我が子とのふれあいの様子と、各幼稚園が創意工夫し、力を入れている行事を通した保育の内容を掲載し、会員同士の意思疎通と情報交流を図りました。

研修交流会は、去る十一月三日大崎市岩出山体育センターに於いて、二〇〇名を越える園児や保護者が参加して、親子のふれあいをテーマに「幼児体育研究所」の先生を講師に迎え、親子の体育遊びについて学ぶ機会を持ちました。

研修の内容は、お家で手軽にできる体を使った遊びから、広い会場を使ってみんなで触れ合って遊ぶ遊びまで、幅広いさまざまな遊びの指導を受けました。

研修のはじめは、緊張気味な園児・保護者のみなさんでしたが、手を取り合い、身体で触れ合うたびに緊張もほぐれ、広い会場をいっぱい使って、各園の垣根を越えて一体感が生まれました。園児も保護者も笑顔がこぼれる楽しい

雰囲気の中、日頃経験のできない親子のスキンシップを図ることができました。また、休憩時間には各園のお父さんの協力のもと、中新田幼稚園の運動会で仮装に使用したトトロと猫バスが登場。会場が歓声で包まれ、子ども達に喜んでもらうことができました。



親子でふれあう機会がなくなってきた今日この頃、幼稚園同士の交流に加え、子どもとのふれあい、いっしょに汗を流す良い機会となりました。

PTAの活動を通して、地域の幼稚園並びに保護者の相互理解と研鑽のために尽くしていただいた皆様方に、感謝とお礼を申し上げます。

登米地区 P T A 研修会

「心肺蘇生法講習会」



登米幼稚園 (P)

伊藤 恵理

平成二十三年八月六日、登米市消防防災センターにおいて、宮城県私立幼稚園 P T A 連合会登米地区研修会が開催されました。

当地区は、三園で構成されておりましたが、三月十一日の東日本大震災で被害にあわれたあさひ幼稚園を除く、二園の保護者と先生方の少人数の研修会となりました。これまでは、運動会などの親子が一緒に楽しめる催しが多かったのですが、今回は心肺蘇生法(救急車がくるまでに)をテーマに自分の命・人の命の大切さを学びました。

まず DVD とテキストを使い、救命処置の仕方・心臓や呼吸が止まってしまう人の命が助かる可能性が、その後の十分の間に急激に少なくなっていく事、救命のリレー(通報・応急手当・救急処置・救命医療)でどれか一つが欠けても命を救えるチャンスは少なくなっていく事、その場に居合わせた人が躊躇せずちよつとした勇気で手を差し伸べてくれる事で助かる命がある事を学びました。



次は、数名ずつグループを組み、人形を使い救命のリレーを実践してみました。何度も同じ事を繰り返しているにもかかわらず手順を間違えてしまったり、胸骨圧迫は「強く・速く・絶え間なく」一分間に百回のリズムで圧迫しなければいけません。五センチ沈むほどの圧迫は大変で、肘を曲げずに垂直に圧迫する事が大変だと知りました。リズムをとるのに、スマップの「世界に一つだけの花」などに合わせるといいとか、今まで漠然としていた救命処置が明確



になったと思います。胸骨圧迫でも正常に回復しない場合に A E D を使います。初めて使うので戸惑いましたが、音声メッセージとランプに従って落ち

着いて操作すれば、初めての私でも出来ました。A E D の中には、小児用パッドが備わっていない場合もあり、その時は成人用パッドを代用する事ができるそうです。何もかもが初めての体験でしたが、今回の救命講習会で心配蘇生法や A E D の使い方を学び、実際に代用する場面に遭遇した時には不安や緊張に負けず、大切な命のリレーを始められればいいと思います。そして、一人でも多くの方が受講し大切な命を守り、子供にも命の大切さを引き継いでいけたらと思います。

研修会開催にあたりご尽力頂いた皆様、分かり易く指導して頂いた消防署職員の方々に、心より御礼申し上げます。

祝 受 賞

ものをたいせつにする心の保育 環境保育から学んだこと



ミネ幼稚園 園長

奥野 成賢

今回のミネ幼稚園では、図らずも平成二十三年地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞させて頂くことができました。本格的に環境活動を開始したのは、平成十六年、ISO14001の取得からです。はじめに保護者の皆様に協力していただき園内の禁煙化、次に電気・水道・紙ゴミの削減活動を実施することとしました。削減数値目標を電気と水道は10%、紙ゴミは50%以上の資源化と定め三年間の活動が開始されました。保育室内は競うように創意工夫を凝らしたポスターがはりだされ、園児への指導方法にも様々なゲーム感覚を取り入れて園内全体が楽しい削減活動の場となりました。活動結果は、電気20%・水道23%の削減となり、紙ゴミは56%の資源化となりました。この傾向は今でも継続され削減がつづいています(電気25%、水道29%、紙ゴミの資源化65%)。結果の数値からだけで判断するとかなり厳しい削減活動と思われがちですが、プールの回数減らしたわけでもなく、園児



に寒さ暑さに耐えさせたわけでもありません、何等不備も苦痛もなく達成が出来ました。この活動では三つの大きな収穫が得られました。①数値目標設定効果②創意工夫効果③楽しい活動効果です。この活動体験が後の保育業務に生かされ、保育室内の掲示物の変化運動会・父母参観日の催しもの等に顕著に表れています。現在は外部に向けての環境奉仕活動を併せて実施しています。六月の世界環境デーにちなみ、ミネ幼稚園では

この日を環境奉仕デーと定め、さまざまな環境奉仕を行なっています。今では恒例の行事となり地域の人々と幼稚園とが一体となって活動する素晴らしい姿がみられる行事となりました。環境保護活動を通し、幼稚園の保育全体も向上し、児童も保護者も地域も毎日の生活意識が向上したように思われます。



親として

なとり幼稚園P

佐藤 友美



二学年達
いの姉妹が、
満三歳から
なとり幼稚園にお世話
になり六年目。長女は小学二年生、次女は幼稚園最後の年を過ごしています。

私は、子供達の自立心を尊重し多くのことを経験させてあげようと思っています。しかし、日々の忙しい生活の中、女の子同士でも興味を示すもの得意なものが違う子供達に対し、親の都合で手や口を出してしまいがちになり見守ることが、なかなか出来ないでいます。

なとり幼稚園の教育方針の一つであります『みんな、じぶんの花になる』—すべての子がその予らしく、のびのびと豊かに成長していく—という言葉に『そのままのあなたが一番』と子供を励まし支え続けていきたいと思えます。これからぶつかるであろう壁を自分の力で乗り越えられる大人に成長できるように今の今を大切に子育てしていきたいと思えます。



知事陳情報告

副会長 稲富 将夫

新年早々一月六日午前十一時から県庁議室に於て、村山知事の新年表敬訪問と、平成二十四年度私立幼稚園に対する補助金の増額に関する陳情書をお渡しいたしました。私立幼稚園連合会から村山理事長外執行部の方々、宮私幼振興対策協議会より伊藤和夫会長外役員の方々、宮私幼PTA連合会から渥美巖会長外、中島、櫻井、横沢、稲富各副会長、常任委員の方々、県私学文書課より大森課長外関係職員の立会いのもと、村井知事に対し、少子化と東日本大震災による厳しい社会状況の影響で保護者の家庭は勿論のこと、幼稚園の復旧、再建に対しては、経営上の過酷な諸問題が山積しております。
平成二十四年の予算編成におかれましては、少くとも東北六県に肩を並べるところまで、ご尽力賜ることを切々とお願いいたしました。

は最後まで熱心に耳を傾け、特に出席したお母さん、こども達に温かいお言葉を頂き、陳情内容の実現に最善の努力をすることのお話しを頂きましたことをご報告いたします。



おしらせ

- ・平成24年度総会
6月7日(木)
仙台市民会館小ホール
- ・教育振興大会
10月3日(水)
仙台市民会館大ホール
- ・親善バレーボール大会
10月12日(金)
グランディ21

あとがき

おかげさまで「宮私幼PTAだより」第79号をお届けすることが出来ました。

本号にご寄稿頂きました皆様様に深く感謝を申し上げます。

広報部長という大役を受けて、できるかどうか不安もありましたがたくさんの方々に助けられ、どうにか大役を務めることが出来ました。本当にありがとうございました。

お礼を申し上げて「あとがき」とさせていただきます。
(広報部長)

編集委員

- 副会長 稲富 将夫(まはなぶさき)
- 副会長 横澤 行夫(おんぎん)
- 監事 津田 晃美(ミネ)
- 部長 石田 由佳(ふくむる)
- 副部長 氏家 圭子(ふくむる)
- 部長 桐原 恵美(鶴が丘)
- 部長 遠藤 陽子(ますみ)
- 部長 大友 里美(ますみ)
- 部長 斎藤 貴仁(気仙沼)
- 部長 島山ひで子(気仙沼)
- 部長 小久保達之佑(登米)
- 部長 五島 愛(登米)
- 部長 藤岡 仁志(小鳩)
- 部長 木村 建一(ひばり)
- 部長 奥野 成賢(ミネ)